



企業の人材採用に役立つICEルーブリック

帝京大学 学修・研究支援センター
主体的学び研究所 顧問
土持ゲーリー法一
(ファカルティ・ディベロッパー)

はじめに

- 1) このタイトルのどこに興味を引かれたか。
- 2) タイトルには2つの**キーワード**がある。一つは、「**人材採用**」ということばである。**人事採用**ではない。**人材発掘**という意味合いが強い。人事採用は、次頁の「氷山の一角」の写真が示すように、表面的な側面が強い。「人事採用」では可視化できる部分でしか評価することができないので、どうしても**有名大学**や**ブランド名**に目が行きがちである。
- 3) 次頁の「氷山の一角」の写真が示すように、海面下には、計り知れない氷山の塊りが隠されている。有名な**タイタニック号**もこれに激突して沈没したと言われる。

人事採用か人材発掘か



ハーバード大学の**人材発掘**

1) アメリカの**ハーバード大学**は、**学生をリクルート**する点で、どの大学よりも卓越していると言われる。それは、**原点から育てることに自信**があるからである。

2) アメリカの大学はすべて**AO入試**である。ハーバード大学は**1年間**かけて優秀な学生を世界中からリクルートする。決して、成績優秀な学生だけとは限らない。なぜなら、**ハーバード色**が出せないからである。**リベラルアーツ教育**には**多様性**が不可欠である。

3) 成績優秀な高校生が「**成績が良すぎる**」という驚きの理由で、ハーバード大学を不合格になった**ドキュメント番組**が以前にNHKで放映されたことがある。

4) いい人材を発掘するには、**手間暇**がかかる。

IQ(能力)だけでは成功しない！！

- 1) 昨年、アンジェラ・ダックワース『Grit やり抜く力』(ダイヤモンド社、2016年)の日本語版が刊行された。
- 2) 20万部突破の売れ行きである。このデータの裏を返せば、「やり抜く力」の人材に乏しい表われである。すでに多くの企業の人事担当者に衝撃を与えたと思われる。
- 3) IQ(能力)では成功しないことが裏づけられた。次頁の写真は、著書の表紙である。
- 4) 興味あるデータではあるが、日本とアメリカでは「社会背景」が違う。アメリカが「敗者復活戦」が許される社会であるのに対して、日本では「新卒」がいつまでも就活の主流となっている。

アンジェラ・ダックワース=著 神崎朗子=訳

GRIT

The Power of Passion and Perseverance
Angela Duckworth

やり抜く力

人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける
ハーバード×オックスフォード×マッキンゼーの
心理学者がついに解明した、

ダイヤモンド社

人生を変える 最強・最速のメソッド！

話題
沸騰

20万部
突破！

いま、世界一話題の空前の
ベストセラー、日本上陸！

ICEルーブリック

- 1) 二つ目のキーワードは、「**ICEルーブリック**」という、まったく新しい手法で学生の資質を測定するものである。
- 2) 参加者の多くは、**ルーブリック**ということばを耳にしたことがあると思われるが、これは2012年8月の**中央教育審議会の答申**で「ルーブリック」が盛り込まれたことから、大学はもとより、高校でも関心が持たれるようになった。
- 3) ルーブリックとICEルーブリックの違いは、前者が生徒・学生の能力の**数量的な測定**に適しているのに対して、後者は生徒・学生の能力の**質的な測定**に役立つ。最近、**医療系(とくに、看護系)**で注目されている。

クールなICEルーブリック

- 1) 試験や点数に左右される日本社会では、ルーブリックは効果的なツールとして注目される。しかし、この評価方法には限界がある。
- 2) 誰しも、点数だけで正確な評価ができないことを知っている。
- 3) たとえば、次頁の算数の小テストは同じ成績を取り、間違えたところも同じであるが、両者には違いがある。ジルは、7と6を足すと12になるという考え(I)レベルでの間違いを繰り返し、一方、ジャックは足し算する時に位を移していない、繰越というつながり(C)がまだできていない。
- 4) このように、ICEルーブリックは、資質を測定できるもので、ICE(氷)のように、「クール」なルーブリックとすることができる。

Monday Morning Quiz

Name Jill

$\frac{7}{10}$

1) 67
 $\begin{array}{r} +30 \\ 97 \end{array}$

2) 123
 $\begin{array}{r} +456 \\ 579 \end{array}$

3) 37
 $\begin{array}{r} +46 \\ 82 \end{array}$

4) 321
 $\begin{array}{r} +568 \\ 889 \end{array}$

5) 269
 $\begin{array}{r} +675 \\ 944 \end{array}$

6) 83
 $\begin{array}{r} +14 \\ 97 \end{array}$

7) 432
 $\begin{array}{r} +267 \\ 699 \end{array}$

8) 52
 $\begin{array}{r} +43 \\ 95 \end{array}$

9) 726
 $\begin{array}{r} +52 \\ 778 \end{array}$

10) 26
 $\begin{array}{r} +37 \\ 62 \end{array}$

a.

Monday Morning Quiz

Name Jack

$\frac{7}{10}$

1) 67
 $\begin{array}{r} +30 \\ 97 \end{array}$

2) 123
 $\begin{array}{r} +456 \\ 579 \end{array}$

3) 37
 $\begin{array}{r} +46 \\ 73 \end{array}$

4) 321
 $\begin{array}{r} +568 \\ 889 \end{array}$

5) 269
 $\begin{array}{r} +675 \\ 944 \end{array}$

6) 83
 $\begin{array}{r} +14 \\ 97 \end{array}$

7) 432
 $\begin{array}{r} +267 \\ 699 \end{array}$

8) 52
 $\begin{array}{r} +43 \\ 95 \end{array}$

9) 726
 $\begin{array}{r} +52 \\ 778 \end{array}$

10) 26
 $\begin{array}{r} +37 \\ 53 \end{array}$

b.

1. 月曜朝の小テスト 氏名：ジル 10点満点のうち7点

2. 月曜朝の小テスト 氏名：ジャック 10点満点のうち7点

数量的な測定方法 ルーブリック

- 1) 中央教育審議会答申でルーブリックが盛り込まれたことで、**ルーブリック**を活用する大学が増えている。
- 2) ルーブリックで学生の能力を十分に測定できるか。たしかに、表面的で**数量的な評価**は可能であるが、**資質**まで評価できない。なぜなら、**評価基準が数量的**であるからである。
- 3) 次頁に、**数量的評価**としてのルーブリックを紹介するが、「ほとんど」「いくつかの」などの「**曖昧な**」表現が用いられる。

米国ポートランド州立大学「SBA 490- Research Foundations」 Literature Review のルーブリック

課題: シニア・プロジェクトのトピックに関する少なくとも10の研究論文を見つけ、どのようにトピックの理解に関連して貢献しているかを示す5～10ページの論文レビューを書く。これは、SBA491 シニア研究プロジェクトの発展へと導く。

範囲	期待を超える(4)	期待通り (3)	何らかの改善が必要 (2)	かなりの改善が必要(1)	不明確 0点
課題	序文のパラグラフで課題を明確に説明している。 序論は読者を課題に関わらせている。 多くの詳細さと描写的な言葉を使用している。 論文は最初の数パラグラフで明確である。	課題が明確に述べられている。 読者を関わらせているが、説得力がない。 論文は最初の数パラグラフで明確である。	課題がコースの重要でない主題となっている。 課題があいまいな記述である。 弱々しくて、説得力ある論文ステートメントでない。	課題はコースのどの考えにも関連していない。 論文への明確な序論がなく文献レビューである。	
研究論文	すべてが同僚評価されている。 少なくとも10で参照されている。 すべてが研究論文である。 多様なジャーナルが使われている。	ほとんどが同僚評価されている。 8～10で参照されている。 ほとんどが研究論文である。	いくつかが同僚評価されている。 5～8が参照されている。 いくつかの本が含まれている。	ほとんどで本と雑誌が使用されている。 1～5が参照されている。	
論理的展開	論文を論理的方法で調整している。 論拠のため、論文からの情報を慎重に扱っている。 論文の構成が明白である。 文章の移行が明確である。 パラグラフにトピック・センテンス (趣旨説明文) がある。	考えから考えまでがほとんどで論理的展開である。 構成にいくつかのギャップが明白である。 数個のセクションに文章の移行が明白でない。 パラグラフにトピック・センテンス (趣旨説明) がある。	パラグラフからパラグラフまでの思考ラインに従うのが難しい。 論文からの不注意な情報の使用がある。 パラグラフはトピック・センテンス (趣旨説明) と移行を欠いている。	思考ラインに従うのが難しい。 論文に自身の言葉を使用していない。 音読が困難である。 パラグラフはトピック・センテンス (趣旨説明) と移行を欠いている。	
結論	批評文献から主要な考えが統合されている。 論文のステートメントを通して課題に密接に関連づけている。	批評文献から主要な考えが統合されている。 課題を推論してリンクしている。	いくつかの考えを統合している。 課題をわずかにリンクしている。	統合されていない。 課題が言及されていない。	
ライティングの約束ごと	テキストと参考文献一覧表でAPA (訳者注: American Psychological Association の略語と思われる) 形式に完璧にもとづいている。 1つの文法の間違がある。	APA 形式の2～3の重要でない間違いがある。 2～3の文法の間違がある。	APA への注意の顕著な欠陥がある。 文法的な誤りが読書を妨げている。	APA 形式にもとづいていない。 あらゆるページにおいて多くの文法的な誤りがあり、読書が難しい。	

Figure 10.1 Horton's literature review rubric.

(日本語訳: 土持ゲーリー法一)

質的な測定方法 ICEルーブリック

- 1)そこで、注目されるのが、「ICEモデル」と言われる資質を測定する、新しい動きである。これは、カナダのクイーンズ大学のスー・ヤング博士らが開発し、2013年5月に「主体的学び研究所」で紹介した、次頁の著書によるものである。
- 2)ICEモデルがどのようなものであるかを、イメージ図を使って説明する。
- 3)ICEモデルを測定に使ったツールのことを「ICEルーブリック」と呼び、これはICEの3つの領域で測定する手法である。詳細は、後述の図表を参照。

主体的学びシリーズ I — 主体的学び研究所

「主体的学び」に つなげる評価と 学習方法

カナダで実践されるICEモデル

原著者・Sue Fostaty Young・Robert J. Wilson
監訳・土持ゲーリー法二 訳・小野恵子

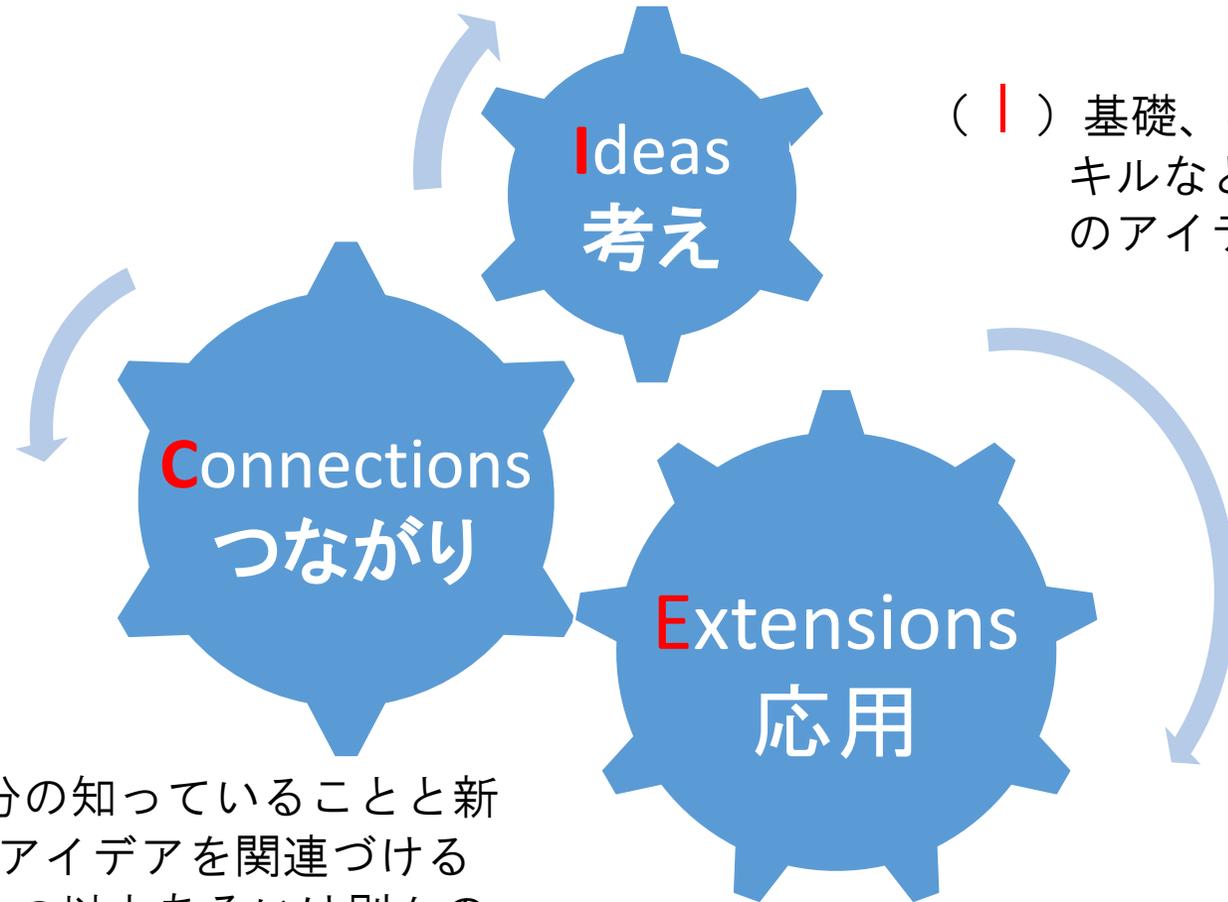
ASSESSMENT & LEARNING
THE ICE APPROACH

「浅い学び」から「深い学び」へ

今日わが国の教育は、教師の教えを自動的に受け入れ模倣する「浅い学び（真似び）」が中心である。「深い学び」に導くために、本書は、学校で教える基礎知識（Ideas）の間のつながり（Connections）を適切な質問と指導を通じて理解させ、さらに自らの体験に結びつけた知の応用（Extensions）へ発展させる、「主体的学び」のための絶好の指導・実例集である。

東信堂

I C Eモデル



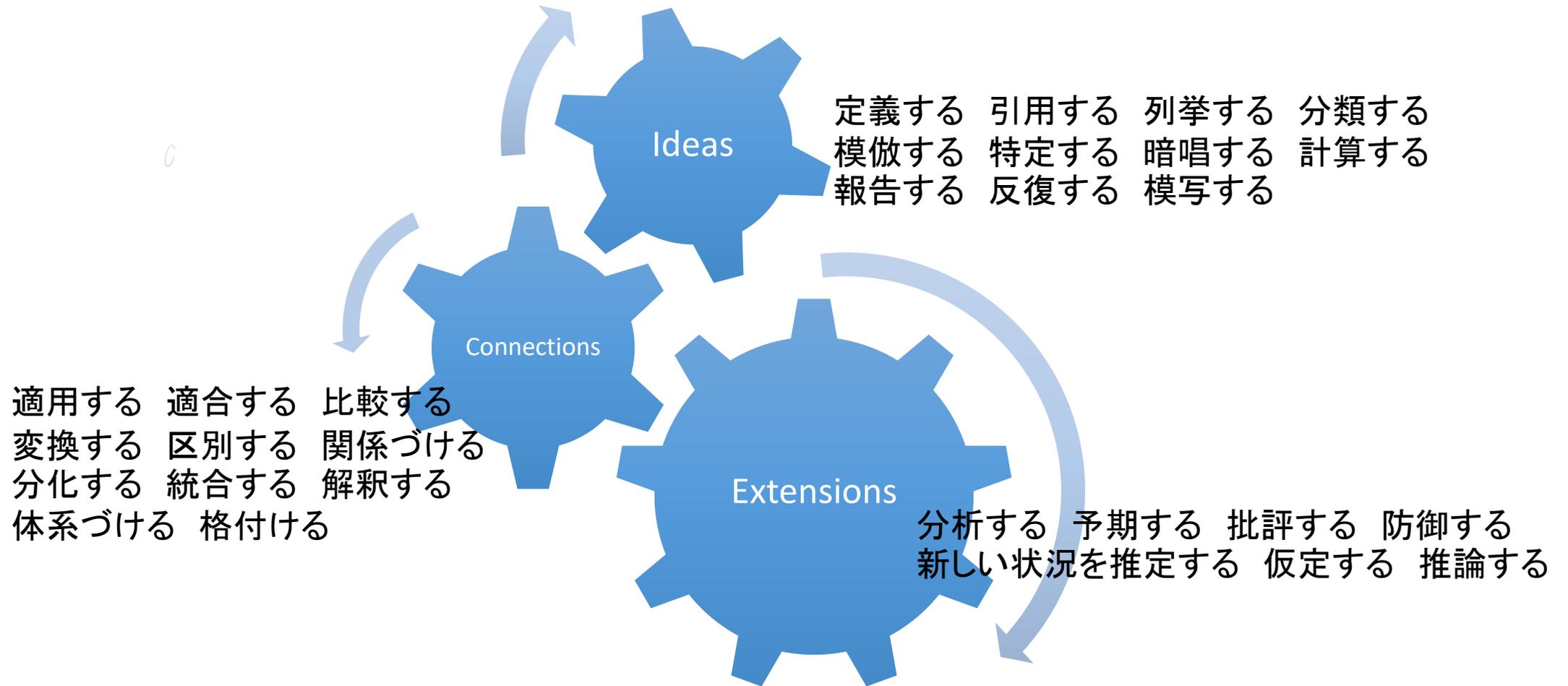
(I) 基礎、事実、個々のスキルなど、一つひとつのアイデアの理解

(C) 自分の知っていることと新しいアイデアを関連づける
／2つ以上あるいは別々のアイデアをつなげて理解することができる

(E) 知っていることから今までにない状況を推定する／結果を予測したり、仮定する／学んだことの意味合いを理解する／仮説を立てる／新しい課題に対応する

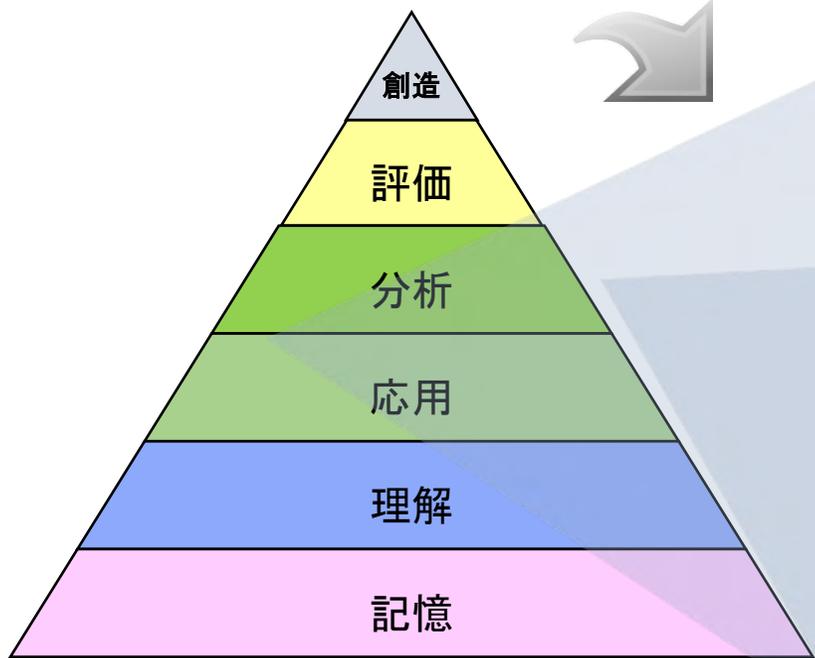


ICE動詞



出典 ICE(Wilson, 1999; Fostaty Young & Wilson, 2000)

ブルームからICEモデルへ



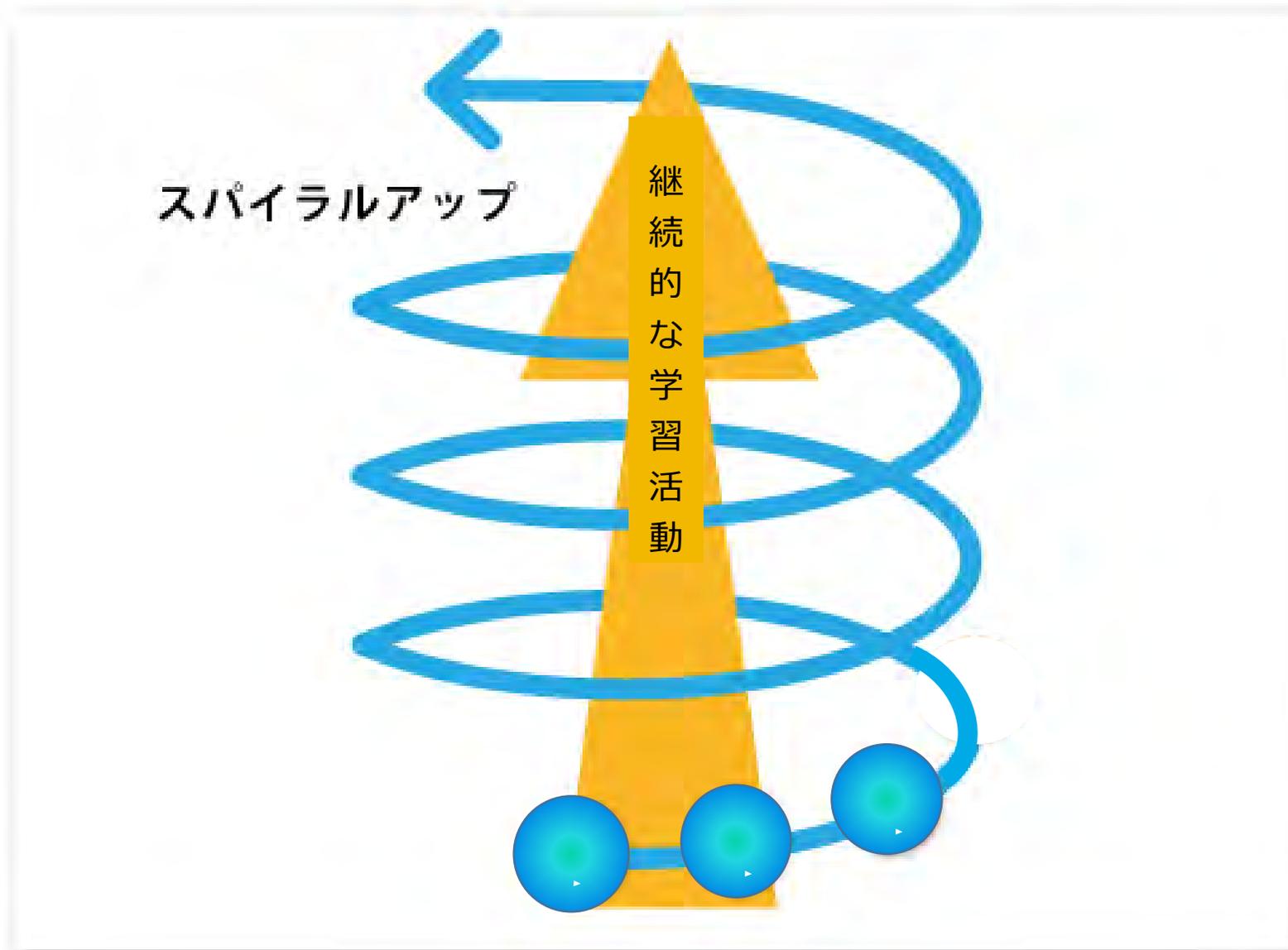
ブルームの分類法(改訂版)

記憶・理解	応用・分析	評価・創造
知識	理解	応用
I (アイデア)	C (つながり)	E (応用)



ICEモデルへ変化

ICEを活用したスパイラルな学び



ICEルーブリックの**実践**

1) ICEルーブリックは、それぞれ、**I**の領域(**知識・情報の能力**)、**C**の領域(**関連づけられる能力**)、**E**の領域(**応用、創造の能力**)ごとに分けて評価する。評価という表現よりも、**アセスメント**ということばが適切である。

2) 次に、ICEルーブリックがどのようなものかを**具体的**に見てみよう。これは、クイーンズ大学で学生に出された課題である。「**壊れたトースター**」と題した課題である。学生は調べてレポートにまとめて提出した。学生からの**多様な意見**を**ICEルーブリック**の表にまとめたのが次々頁である。

壊れたトースター



<https://www.pinterest.com/SeaOfFreaks/toaster-obse...>

ICEルーブリック(例)

観点	<i>Ideas</i> (基本的な考え)	<i>Connections</i> (つながり、関連づけ)	<i>Extensions</i> (分析、予測、推論)
課題 「壊れたトースター」について調べて自分の意見を述べよ	トースターの正常に機能していないすべての要素を特定できる。	トースターのどの部分が機能していないかを示し、それらのパーツがまだ作動しているメカニズムにどのように影響しているかを関連づけることができる。	どの部分が壊れているかを指摘し、それらがまだ機能しているパーツにどのように影響しているかを示し、さらに、トースターをどうしたら修理できるか、そして将来の機能不全を防ぐためにはどうしたらよいかを予測できる。

ICEルーブリックによる**人材採用**

- 1) 貴社はどの領域の学生を採用したいですか。あるいはどのような領域の学生をこれまで採用してきましたか。
- 2) 指示されたことを従順にやる**I領域**の学生か。それとも、知識・情報を関連づけて活発に活動する**アクティブラーナー**の**C領域**の学生ですか。それとも、思慮深く、省察的で応用や創造につなげられる**E領域**の学生ですか。
- 2) ICEルーブリックは**パフォーマンス評価**を示したのではなく、「**領域**」を示したものであることに留意する必要がある。
- 3) したがって、**職種**によって求める人材は違ってくる。**どのような人材**を求めるか、事前に**ICEルーブリック**を作っておくと便利である。

大社**連携**の提唱

- 1) 日本における**高大接続の議論**には少し違和感をおぼえる。
- 2) 大学が議論すべできは、高校と大学の「**入口**」の接続ではなく、**大学と社会の「出口」の連携**を考えることである。
- 3) 大学が高大接続に力を入れるのは、大学教員の独りよがりである。
- 4) アメリカは、すべてが**AO入試**なので**多様な学生**が入学しても教員はそれに対応できなければならない。それが大学教員としての**プロフェッショナル**である。
- 5) これは、教育と**エデュケーション**の考えの違いに由来する。
- 6) 当時に、未だ**パラダイム転換**ができていない証である。世界は、教育(教員)パラダイムから**学習(学生)パラダイム**に大きく移行している。



Teaching Paradigm



Learning Paradigm

出典:「パラダイム転換の未来(さき)にあるもの～21世紀の教授、学習、大学組織を語ろう～」
(POD/Teikyo Collaboration Project 2015)

シンガポール・マネジメント大学 (SMU)

- 1) **大社連携**で注目されるのが、シンガポールの大学である。日本はこれまで**欧米志向**であったが、これから注目されるは、アジアの中のシンガポールの大学である。世界ランキングでは、東京大学を凌いでいる。(詳細は、次頁の近刊予定の拙著を参照)
- 2) 昨年10月に2つの大学、デューク・シンガポール国立大学医学部と**シンガポール・マネジメント大学 (SMU)**を視察した。**SMU**は、本日の講演の趣旨に合致している。
- 3) **SMU-X**というユニークな取組みがある。“**X**”とは何か。これは大学と企業を結ぶ「**架け橋**」である。日本にも**インターンシップ**という制度があるが、それとは違う。
- 4) 企業の担当者が大学に乗り込んで、**教員・学生・企業の三位一体**で**カリキュラム**や**共同プロジェクト**を行う画期的な取組みである。

社会で通用する持続可能な アクティブラーニング

～ICEモデルが大学と社会をつなぐ～



土持ゲーリー法一

大社連携の**合同授業**の紹介

- 1) 拙著の中には、次頁の写真のように、「読売新聞との合同授業「ハテナソン」」が紹介されている。
- 2) また、この合同授業の特徴は、メディアサイト社の「マイメディアサイト」が「反転授業」および授業後の迅速なフィードバックに活用されて注目されている。詳細は、次々頁の写真を参照



(写真：「対話」を重視した授業をする読売新聞社の松本美奈講師 帝京大学本部広報より)

JOAN : Sunflowers. Vincent van Gogh. Eighteen eighty-eight.
KATHERINE: He painted what he felt, not what he saw...

8

一時停止
08:14 / 12:01

松本美奈先生からの
フィードバック
—振り返りシート (8) —



20160601
一般教養セミナー I



一時停止
0:04 / 4:36

1x

Speaker icon and volume slider

Info icon, Menu icon, Search icon, Help icon

おわりに

- 1) 多くの企業は、優れた人材確保に苦勞している。したがって、優秀と言われる**有名校**や**ブランド校**から安易に採用する傾向がある。これで**プロの人事担当者**と言えるのか。
- 2) 日本の大学を改善する「**秘策**」は、**企業**にかかっている。日本の大学が良くないと言われるが、それは**企業の責任**でもある。
- 3) 最近、タイムズ・ハイヤーエデュケーション (**英国調査**) **評価指標**が公表された。その中の**THE大学ランキング日本版2017**の評価基準の「4分野11項目」があり、「3. **教育成果** (Outcomes)」では、「**企業人事の評判調査**」が含まれていることは注目に値する。(詳細は、以下のサイトを参照) <http://hot-topic-news.com/japanese-university-rankings-2017-THE>